

令和5年度第1回 横浜市地域福祉保健計画 策定・推進委員会	
日 時	令和5年7月26日（水）14時00分～16時05分
開催場所	横浜市役所 18階共用会議室 みなと1・2・3会議室
出席者	有本委員、生田委員、内田委員、内海委員、久保田委員、小林委員、小宮山委員、佐伯委員、坂本委員、鶴見委員、名和田委員長、西尾委員、福本委員、星委員、本宿委員、増子委員、山田委員、山野上委員（18名）
欠席者	宇野委員、佐藤委員、塩田委員、水野委員（4名）
開催形態	公開
議 題	<p>議事【議事1】第4期 横浜市地域福祉保健計画 最終評価（案）について</p> <p>【議事2】第5期横浜市地域福祉保健計画について</p> <p>（ア）第5期横浜市地域福祉保健計画素案に係るパブリックコメント実施結果について</p> <p>（イ）第5期横浜市地域福祉保健計画評価方法について</p>
決定事項	<p>【議事1】第4期横浜市地域福祉保健計画最終評価は、（資料1-3）のとおり確定。</p> <p>【議事2】第5期横浜市地域福祉保健計画評価方法は、概ね（資料3-2、3-3）のとおり進めていく。</p>
議 事	<p>議事</p> <p>【議事1】第4期 横浜市地域福祉保健計画 最終評価（案）について</p> <p>（事務局）資料1-1、資料1-2、資料1-3について説明</p> <p>（名和田委員長）ありがとうございました。では意見交換に移りたいと思う。</p> <p>概要版にしたがって説明いただいたが、この概要版とその背後にあるA3の資料の内容について、それから今回地域福祉保健計画の評価はなかなか難しいもので、別途、この後の議題にもなるが、一定の手順を踏んで行うことになっていて、それが資料1-1で多少、説明をいただいた部分である。手順と実際の評価内容についてご意見をいただければと思う。</p> <p>最終的な評価は「◎」「○」「△」という3段階評価で、このようにするとどうしても真ん中に寄りがちになるので、世の中では4段階評価にして、そういう安易な結果は許さないという話もあるが、地域福祉保健計画の評価はまだまだ試行段階だと私は感じていて、この3段階評価でやってみてはどうかと私個人として思っている。そういう評価の手順や手法、今回の第4期計画の最終評価の中身について、既に意見照会等で、本当に貴重なご意見がたくさん出ているかと思うが、さらに意見があれば承りたいと思うし、改めてこういう結果になったことについて感想等があればお願いしたい。</p> <p>（本宿委員）金沢区生活支援センターの本宿です。まず前提として、概要版とA3資料は、幅広く市民の方に直接閲覧ができるようなものとして作成を予定されているのか。</p> <p>（事務局）こちらのA3判のものと概要版については、整えた後ホームページ上で、公表させていただく予定である。</p> <p>（本宿委員）ありがとうございます。それを踏まえてこのままよろしいか。</p>

まず、感想としては、総合評価案の「◎」「○」「△」のところで、「◎」は「計画以上の効果が現れている」ということで、非常にハードルが高い印象を受けた。だからどうしても評価は「◎」には行かないだろうと感じた。ただ、実際はこの地福計画を基に各区で新たに区ごとの地福計画がつけられ、それを実行された結果がまた集約されてここに来ていると思うので、一生懸命地域で実践されている方の評価、モチベーションというのだろうか、できたものは、やはりきちんとできたという形で評価されているほうが、真ん中ばかりに「○」がついていると、何かもやっとする印象を受けた。したがって、総合評価案のところが確定しているものかどうかは分からなかったが、例えば「計画以上の効果が表れている」、「おおむね計画どおり」という文言のところを変えたりできるのであれば、もう少しできたことに対する評価があると、地域でも実践できたことにモチベーションが上がり、次につながるかと思った。

もう一点は課題のところである。○印がついていて、推進の柱1に関して、課題(必要な取組)のところは○が4つになっているが、この4つというのは、上から柱1-1、1-2に連動しているわけではないということだろうか。

(事務局) 連動している。

(本宿委員) そうすると一番上の○は1-1に対するものか。

(事務局) その通りである。

(本宿委員) それであれば市民の方が見たときに、課題のところだけ○がついていて、委員の意見などは柱1-1と書いてあるので、取組の成果と課題が連動していることが見えたほうが良いと思った。推進の柱3に関しては課題の○は5つあるが、これはそれぞれの柱に複数の課題があったところでまとめられている。それであれば課題のところナンバリングされているほうが見やすいと思った。

(名和田委員長) ありがとうございます。重要なことで、概要版も、A3版で今日提供されているものも、両方ともホームページで公表されているとすると、分かりやすさという意味では概要版も分かりやすいほうが良いと思うので、工夫をお願いしたい。

1番目に言われた点は、これまた重要な問題で、区計画の評価だと、区や専門機関、区社協、地域ケアプラザが主体となっている事業は、厳しめというか、区役所の自己反省も含めてだが、地区別計画の評価は別に甘くつけるという趣旨でないが、地域の方が頑張ってきたことを励ます立場で評価をしていく、こういう使い分けができるかと思うが、全市計画の場合はそういう区別がないので、もう少し項目を細かくして「◎」「○」「△」をつけるとか、何かそういうことも今後は考えられる気がした。その点も検討いただければと思う。現時点で、事務局、何か考えはあるか。

(事務局) 今の総合評価案については、前回の中間評価も同じく3段階にしていたが、今ご意見を頂戴した一番上の「◎」はかなり厳しいとのこと、例えばこのような表現であれば良いのではないかとといったご意見がもしあればいただければと思う。

(名和田委員長) 文言で既にハードルがあるので、本宿委員のみならず、何か良いお知恵があればお願いしたい。これは事務局でも考えていただき、5期計画の中間評価辺りではもう少し文言や、あるいは評価の単位、ユニットについて検討いただくということが良いだろうか、

(事務局) ありがとうございます。後ほどの議題となるが、5期の評価については案が

あるので、今期を踏まえて生かしたいと思っている。

(名和田委員長) ありがとうございます。では、さらにご意見、ご感想、ご質問等を求めたいと思う。意見照会に対する回答の事務局による扱いは、行政が行う計画の評価ということがあるので色々な対応になっているが、全てなるほどと思うような指摘で、私もなるほどそうだと思いますながら読んだ。ただ、事務局は計画評価を確定する必要があって、このような対応になっているので、そこはご理解いただきたい。何かあるか。

(生田委員) 地域ケアプラザ代表の生田です。成果のところは、このようなことができたということで非常に良いと思うが、気になるのは、コロナがあって、結果としてできなかったり、考え方が途中で変わって軌道修正になったようなものがきっとあると思うので、この意見照会の3番目のところだが、コロナの中でも行ったことは評価しますとあるが、評価なので、計画はこうだったが、少し変更した部分分かるようになっていたら良いかと思う。3のところ、ICTやネットワークという言葉が出てくるのも、それは元々進めていた部分と思うが、コロナ禍でその辺りが一層クローズアップされた部分なのかと思うので、その辺が評価の中では変わったことが分かるようになっていて良いと思った。

(名和田委員長) ありがとうございます。

(事務局) 市社協と私どもで議論したときに、今回、枕言葉のように「コロナ禍」というのが全部についてしまう程で、作業の中であえてそれをカットした経緯がある。コロナ禍でもこれだけ進んだとか、まさに今のICTのところは、コロナ禍があったからこそデジタル化が進んで、オンライン上でのいろいろな活動、オンライン会議やつながりが新たにできたところがあり、それを踏まえて、分かりやすい表現で削ったところである。

例えば、重点項目3-1の幅広い市民参加の促進のところ、「できたこと・やったこと」の「結果」の上から4つ目の○「新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの活動で休止や縮小がありました。活動の重要性や目的を再確認し活動内容を工夫することでこれまでつながりがなかった方の参加や活動の再開が進みました」とあるように、トピックス的に一部だけ残したような形で書かせていただいた。

(名和田委員長) ありがとうございます。事務局も随分苦労して工夫していただいた。それでは私から、余計な感想、コメント、素人の発言になるのかも分からないが、委員の皆様へのお礼も兼ねて一言申し上げたいと思う。

この意見照会に対するご意見は全部見させていただいた。本当によく資料を見て、それぞれのお立場、実践から反応いただき、感心している。本当にありがとうございます。

私の個人的な関心もあって、1つは、より身近な地域での活動を重視していくことが第4期計画の一つの眼目だったと私は理解している。それに関する記述が結構あって、広くその重要性が共有され、実践されてきたことが確認できた気がしている。その点は、とても良かったと思っている。

それからもう一つは、これも2~3ご指摘があった気がするが、ボランティアをする人が減っていることである。実際、資料1-3の評価書の定量的なデータからはそ

うということが見えるが、そういう指摘があつて、それは結構深刻なことかもしれないと思った。確かにコロナで減ったのはよく分かるが、コロナで減ったといつても、ほかの論点だと、一旦減ってもまた持ち直して結果的には増えているという分野のデータもある。しかしボランティアについては回復していない。別途自分で行った調査で見ると、そういう傾向が見える。これは結構構造的な問題ではないかと思っている。その辺どうしたら良いかを、私にはすぐには分からないが、今後考えていかなければいけないと思っている。地域でボランティアができる人が、だんだん縮小している。人口そのものが縮小しているから、縮小といえば縮小していると思うが、高齢者もまだまだ働かないと生活が不安であるとか、いわゆる専業主婦という存在がほとんど今は消えてなくなっていて、男性も含めて、働きながら、地域では相応の活動ができるような工夫や、あるいは企業文化の改善、修正といったことが課題になっている指摘もあり、実際事務局案にも取り入れられている。従来、自営業者のような方が24時間地域にいらして、色々心配を配っていただいていたが、全体としてはそういう自営業者の方が減っていることもあるかと思う。そういう構造的な問題があつてなかなかコロナが明けても回復していないようである。本当にそうかどうかはもう少し時間が必要だが、やや心配だと思った。そのようなことが丁寧に資料を見ていくと読み取れる。今、評価の方法を我々は検討して、この後の議題になるが、ある意味試行的に第4期の最終評価をこのように出してきて、やはり実践して良かった、実践したかいがあると思う。区役所に事務局が照会して、たくさんデータを集めて、あるいはどういう事例があつたかを集めてこのようにまとめて、局と区的意思疎通がより緊密になったという効果もあつたのかと、それは非常に喜ばしく思う。区役所で地福計画を行なつて、局に行くとよく分からなくなつてしまつた話は昔聞いたことがあつて、そういう状況はかなり改善されていくのかと思つた。

ともかく、このような評価は初めてで、ある期の計画の評価を最終的に確定させつつあるという経験を持つたことは、とても良かったと思う。個人的な感想を申ししたが、ほかにご意見、ご感想がなければ、次に進むがよろしいか。どうぞ。

(内田委員) 資料1-3のA4の概要版だが、拝見すると、色が青やグレイが混在しているが、私には見にくい部分があるので、できれば他のところにも色をつけたほうが良いのではないかと思う。例えば、柱1-1であれば緑、柱1-2であれば青というように、推進委員会の意見や課題についても色分けを統一したほうが分かるのではないかと考えた。成果のところのみが色分けされているので、他の課題や委員会意見についても色を入れていただきたい。

(名和田委員長) ありがとうございます。これはネット上で公表するものなので、それに向けた分かりやすさを考えてほしいというご意見かと思う。今日の資料は、我々にとって分かりやすいように、結果と経過、これは水色と白で区別して、それで我々としては見やすいところだが、一般市民に対して、ネット上で公開するときは、ネット上なので、色々その辺の工夫はできるかと思う。その辺を考えていただきたいということかと思う。事務局、よろしいか。

(事務局) なかなか気づかないところをご意見いただきありがとうございます。見やすいように、配色の部分などを工夫してまいりたいと思う。

(名和田委員長) このようにスタイルを統一することは大事だと思うので、横浜市の地域福祉保健計画は大体このような色分けがしてあることが定着すると見やすくなっていくと思う。他によろしいだろうか、それでは、ありがとうございました。次の議題に移りたいと思う。

【議事2】 第5期横浜市地域福祉保健計画について

(ア) 第5期横浜市地域福祉保健計画素案に係るパブリックコメント実施結果について

(事務局) 資料2について説明

(名和田委員長) ありがとうございます。パブリックコメントは、皆さんもご承知のとおり、一般に意見を求めるものだが、この第5期の計画は、一般的に市民にご意見を伺うという当然のことだけではなく、色々な活動団体などにも配布され、様々な意見を集めるように配慮した結果、意見が集まったということだと思う。これについて何か質問や意見はあるか。

(福本委員) 今回のパブリックコメントは概要版をはじめ色々と送っていただき、配架してみたが、私のところは子育て支援拠点なので、若い世代の母親や父親たちが来ていて、なかなかそれだけを取るという行ないない。スタッフがこういうことをやっているから答えてみてと促したら持って帰ってくれるが、その中身を見て答えられるかといったら多分答えられないと思った。

今回、時間がなく、広場の利用者にお伝えする時間が取れなかったことが私の課題だと思うところだが、スタッフにどういうことが良くなれば、ここに来ている母親たちが地域で暮らしやすくなると思うか、スタッフにワークショップ形式で意見を出してもらい、今回意見書をまとめさせてもらった。そこまで丁寧にしないと市民の声というのは拾えないのではないかと正直思っている。

今回、横浜市の色々な施策でパブリックコメントをお願いしますと飛んでくるが、やはりもらった団体がどう丁寧に利用者に伝えていくか、配架するだけではなく、その媒体が見ればこのように回答すれば良いことが分かる書きぶりにしないと、なかなか伝わらないのではないか。地域の方がどのようなことを行なってきた、それが直接自分たちにどのように届いてくるのかは、見えにくいというのが正直な意見である。したがって配るときに言葉をかけて配らないといけなかったのでは、大した量がさばけなかったというのが私の課題である。

(名和田委員長) 私の課題と言っていたら、本当にありがたい。そこまでしていただきたいというのが本来かもしれないが、なかなかそこまで手が回らないことも多かろうと思う。パブリックコメントの集め方の手法が問われているのかもしれない。事務局、何かあるか。

(事務局) 福本委員、ご丁寧に説明いただいたようでありがとうございました。私どもも素案冊子自体はかなりページ数も多く、文章量も多いものになるので、丁寧に全体を説明するということができないまま、リーフレットなどで説明をして回ったところである。ぜひ、今後この地域福祉保健計画のみではなく、パブリックコメントを市で行う際の参考にさせていただきたいと思う。ありがとうございました。

(名和田委員長) ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(山田委員) 今の福本委員の話で、全くそのとおりだと聞かせていただいた。私も委員の立場として、このパブリックコメントがどのように皆さんに伝わっていくのかということに関心を持って見ていた。ある社協の中に資料が置かれていて、会議室には、市民のそれぞれの団体の人たちがたくさん来ていた。様子を見てみると、そのまま通り過ぎていってしまう。つまり、そこに置いてあっても気がつかないでいってしまうというケースが多々あって、毎回見ていたわけではないのでいつもそうだとはいえませんが、多分いつもそうなのではないか。せつかくこれまで皆さんが苦勞して、役所の方も対応してくださったものに目を通さないというのは、とてももったいない気がする。その際、できるかどうか分からないが、例えば、社協の方が、皆さんが集まるところに5分でもお邪魔して、こういう試みをやっていることを説明するだけでも持って帰る人が増えてくるのではないかと。特にこの委員会は地域福祉、地域ということが掲げられていて、まさに地域力というものを求めているならば、そういったことが非常に大事になってくるのではないかと思う。私がそのような立場の人にこうしたらどうですかとはいえませんが、できればそういう意識でこの資料を活用していただければ良いのではないかと。

(名和田委員長) ありがとうございます。いかがでしょうか。よろしいか。

私も、今は行っていないが、国の委員に任命されてパブリックコメントに携わることもあるが、国レベルになるともう相手が見えない。もちろんそのテーマにとっても関心を持っている団体や人であれば非常に細かい、場合によっては建設的な意見を出してくる場合があるが、なかなかここまで建設的で共感に満ちたパブリックコメントが出てくることはないので、やはり基礎自治体というか、特に地域に根差した地福計画なので、ありがたい意見がたくさん出ていると思う。その意味では、事務局をはじめ地域の活動者の方々に協力していただいて、成果のあるパブリックコメントであったと感じている。

それでは次の議題に移らせていただいてよろしいか。先ほど、(ア)、(イ)とお伝えするのを忘れたが、ここまでで議事(2)の(ア)が終わり、次に議事(2)の(イ)に入る。第5期横浜市地域福祉保健計画評価方法について、私と西尾委員と有本委員の学識者委員と事務局で検討してきて、ようやく皆様方に評価方法についてご意見をいただくというところまで来た。まず事務局から説明をお願いしたい。

(イ) 第5期横浜市地域福祉保健計画評価方法について

(事務局) 資料3-1、資料3-2、資料3-3(前半)について説明

(名和田委員長) ありがとうございます。これはまだ議事(2)(イ)の説明の途中で、この後またご説明いただくが、ここまでのところで頭の中が共通化されることを確認したいので、ここまでの段階で質問等があればぜひお願いしたい。どうぞ。

(内田委員) 先ほどのロジックモデルの内容は、私としては非常に分かりやすく、理解しやすい。私たちから見ても、関係性も含めて見やすいけれど、少し引っかかるところがある。色である。もちろん案だということで理解はしているが、資料3-2お祭りのところのような色分けは非常に見やすいと感じた。しかし、同じような色になって

しまっているが多いと思う。黄色と茶色があるが、できればはっきりと色が分かる違う色のほうが見やすいのではないかと思う。例として出されたお祭りのところのような色を使っていただくとより分かりやすいのではないかと感じた。

(久保田委員) 薬剤師会の久保田です。ロジックモデルについて私の理解では、最終アウトカムが元々あり、そのアウトカムのために必要な中間アウトカムが何なのか、そこに行くための上から落としていってツリーをつくるというイメージだったが、先ほどの説明だと、取組から始まって積み上げていった結果最終アウトカムに来るといった説明をされていたので、それでいくと、多分、逆になってしまうから、作り方を変えようということになったと思う。実際にその方向で見て、地域福祉保健計画の素案ができていのかどうかまでは見ていないが、方向性としては、私の認識が合っているかどうか、一旦確認をさせていただきたいと思う。

(事務局) ありがとうございます。まさに久保田委員がおっしゃったように、ロジックモデルに関しては最終アウトカムに向けて何が必要かを論理的に結びつけるものになるので、最終アウトカムに必要なものは中間アウトカムとして何か、それに必要なものが直接アウトカムとして何か、さらにその取組が、どういったものかというものをつくるのがロジックモデルなので、そこは正しい認識である。しかし、今回に関しては5期の取組をベースに、このつながりを表したロジックモデルということで、当然最終アウトカムからブレイクダウンしていたものにはなっているが、ここの表としてはつながりを示していることで活動から説明させていただいた次第である。

(久保田委員) 伝えやすくするためにそういう説明をされたと、理解した。実際の評価は中間アウトカムを中心に評価をするという話をされていたが、本来の評価で言えば、最終アウトカム、中間アウトカム、直接アウトカムも、取組も、それぞれ評価をして、総合的に判断して、結果、最終アウトカムの評価になると思うので、今のことで言うと、中間アウトカムだけを評価するように聞こえてきたのだが、そこも私の認識が間違っていないかだけ教えていただければと思う。

(事務局) すみません。説明が漏れていたかもしれないが、中間アウトカムを中心に評価することで、最終的には、最終アウトカムでの評価を行う形になる。

(名和田委員長) ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(福本委員) 評価指標のところ、市民の関心、態度、行動の変化などが分かるものを設定してはどうかということが書いてあるが、実際に市民の関心、中間アウトカム、直接アウトカムのところで評価されると思い取り組んだ実績は、多分この取組のところで分かるが、それを受けた市民の人がどういう関心事に動いたのかはどうやって調査を取っていくのか。そういう地域の取組で共通のアンケート調査をしていくのか、どこを取って私は地域に助けられているという思いを酌んでいくのか疑問だったので、その辺は考えられているのか、あるいは、この場でみんなで議論していくのかを知りたかったところである。

(名和田委員長) 今の質疑を聞いていると、少なくともこのロジックモデルという聞き慣れない言葉の下に説明されたことは、実は割とすとんと落ちるようなことで、大まかな理解は共有されているとお見受けしたので、先ほど、この説明には後があると申したが、そちらの説明の後半に進ませさせていただいてよろしいか。では、事務局、続け

て説明をお願いします。

(事務局) 資料3-3(後半)の説明

(名和田委員長) ありがとうございます。今の後半でご説明いただいたA3の縦長の資料、資料3-3の2枚目が評価指標を実際に入れ込んだロジックモデルになっていて、こういう指標で測っていきこうというわけである。これは完璧ではないので、こういう指標があるのではないかと、こういうデータが取れるのではないかとといったご意見があれば、むしろぜひここで承りたい。こういうやり方で第5期は評価をしてみようということだが、いかがだろうか。ご意見、ご質問等をお願いしたい。

(内田委員) アウトカムという言葉は、市民の皆さんになじみがあるのだろうか。何のことか分からない可能性がある。これを分かりやすい日本語に訳せばどういう言葉になるか。アウトカムは評価という言葉とは少し違うのか、その辺が曖昧だが、アウトカムというのは割と日常的に使う言葉なのかをお伺いしたい。

(名和田委員長) これは評価用語であり、事務局のほうから説明をお願いしたい。

(事務局) 資料3-2の表2のところに説明が書いてあるが、アウトカムの下に取組の結果として生じた変化・効果と書かれている。ここには課題も成果も含まれていて、一見生じた変化・効果というのを見ると成果っぽく見えてしまうが、実はこの中には課題もあるので、日本語でびたっとアウトカムだけを示すのはなかなか難しい。先ほど名和田委員長も評価用語とおっしゃったが、なかなか日本語で説明するのが難しいところではある。言うならば変化であったり、効果というところかと思う。

(名和田委員長) 評価の世界では、アウトカムに対する言葉はアウトプットという言葉があり、先ほどのお祭りの例で言うと、チラシを地区内で1,000枚配布したことは直接行ったことなので、アウトプットと言われている。では、チラシを1,000枚配ってそれが何なのか、1,000枚配布してどういう効果があったのか聞きたくなるではないか? どういう効果があったか、あるいはどういう効果がなかったか、これがアウトカムとなる。だから今説明があったような変化は、チラシを1,000枚実際に行動に移して配ったことによって地域に生じた変化、それはプラスの変化もあり、マイナスの変化、課題もあるだろう。こうやって実際に活動したことそのものはアウトプットで、それによって生じた変化がアウトカムと言われている。アウトカムも多層的で、この整理だと、直接アウトカム、中間アウトカム、最終アウトカムとなっているわけである。私が説明したらなおさら分からなくなったと言われたら申し訳ないが、それで大体よろしいだろうか。

(福本委員) この資料をいただいたときに、私もこのロジックモデルというのを恥ずかしながら知らず、調べたところ、これは自分のところの取組にも使えると思って、やり方を昨日一日で調べてきた。だからこそ、私どもの子育て支援拠点は、子育ての孤立感をなくすというのを最終アウトカムに掲げた場合、ここに来てくれた人に対して聞き取り調査ができて、最終的にアウトカムにつなげていけることができると思った。つながっていない子育てをしている人をどのようにつなげるか、色々な取組からアウトカムに引っ張ってくるのかを私の中で想像した結果、この地福計画で考えた場合、区計画、地区別計画とどんどん下りてきたときに、末端の部分をどう拾っていくのかがすごく難しいと思った。

直接アウトカムのところに書いてある困りごとを抱えた人や、住民同士はもう末端のところだと思うが、今、ここで私たちが話している市計画というのは結構施設間の部分が多いと思う。この1番、2番のところはとても地区別計画にも直結しているところだと思っている。例えば、地区社協を知らない世代がたくさんいる中で、地区社協を知っていて関わっている人たちの事業数は分かっても、そうではない人がどれだけ気づけていて、なおかつつながりが増えているかをどう測っていくのかというところはすごく難しいと思って見ていた。

働き世代、若手というと20～30代と思われるかもしれないが、40～50代の人もばりばりのキャリアの人が多いため、そういう人も地域の活動には参画していない人が多い。そういう人たちを地区の取組に近づけていくことが、とても大事になってくるのではないかと考えている。その視点も併せてどのようにここを評価していくのか、その人がどう地区社協を知って、そこにどう入っていくのか、地区別計画からどんどんその取組に気づいていくのか、どのように捨てるのかはすごく難しいと思って聞いていた。

(名和田委員長) ありがとうございます。多分1つは、直接アウトカムおよび中間アウトカムをどのように項目立てするか。地区社協に入っている、知っている人の数や、あるいは、先ほどの子育て支援拠点で孤立感なく子育てしている人の割合や数。また、直接アウトカム、中間アウトカムを測れる数字あるいは定性データでも良いわけだが、市民意識調査での数字の結果でも良いし、地域ケアプラザにヒアリングをして、そこで得られた定性データでも良いのだけれども、どのようなデータを拾えばアウトカムが達成されたかが分かるのか、その2つの問題で知恵を絞らなければいけないと思う。有本委員、そこをぜひお話しいただきたい。

(有本委員) 評価委員会でこの意見を出したのは私にして、少し補足説明方々また問題提起をさせていただけたらと思う。

関心や今の認知は変わるものである。知らないことが知っているになるというのは、非常に重要で、把握が可能と考えている。これまで地域福祉保健計画の評価が市民意識調査だけに偏ってしまうのは非常に残念なことだと思っている。私の分野では、色々な分野の委員会や、調査を分析することを教育の中でも取り組んでいる。この地福計画は多分野の計画と連動する横断的な計画になっていると思うが、例えば、高齢者実態調査は市全体でも行われていて、高齢者のつながりはどうなのか、認知はどうなのかということは実際に市全域で聞かれている。それから子ども子育てでも、ニーズ調査が行われていて、各区でも子育て実態調査が実施されている。私もお手伝いをしたことがあり、自治会の認知度や、実際に利用されている方だけには限らない方たちもそこでは答えてくれている。その際、「地域で交流したいと思いますか」と問うたときに、父親の半数以上が、関心がないと答えているような実態も実際に明らかになり、その区の中で地福計画、区の計画に反映することもある。それから「健康横浜21」を計画するための調査も市全域行われているが、その中で、例えば健診にはどのぐらいつながっているのか等、色々なことが分かるので、これから指標を導いてくるときに、市ではどのような指標を使うのが検討可能だし、区レベルでも色々な調査の結果を分析することができる。

また、もう一点補足したいのが、私は今横浜市立大学に属しているが、横浜市立大学はデータサイエンス学部を持っていて、横浜市の皆様にかなりご協力をいただいた調査を行なっている。例えば、30歳以上69歳以下の成人の方にアンケート調査を行なって、健康の実態や人とのつながりについてお答えいただくような「よこはま健康研究」、それから20代～45歳までの女性の夫婦世帯に、子どもがいる、いないに限らず、1万世帯にアンケートを5年間取っていくような調査研究も、今、「ハマスタディ」ということで始まっている。そのような大学の調査研究を施策に生かすように取り組んでもいるので、そのような内容も地福計画に生かせるのではないかと考えている。ただそれを拾ってくるのは非常に大変なことになってくるので、それをどうしていくのか、また、それだけでもアンケートに答えてくれる人は限られているし、そうではない方の声をどう拾うのかは課題だと思うので、ぜひお知恵をいただければと思う。長くなりましたが、補足説明とアイデアとなる。

(名和田委員長) 有本委員、ありがとうございます。事務局、現時点で何かお考えがあれば。

(事務局) ありがとうございます。今、有本委員にもお話しいただきましたが、特にながっていない方、例えば、行政や地域の方とつながりのない方からのご意見、そういった方たちが感じていることをどう把握するのかというのは課題で、非常に難しいと考えているところである。今後、どこまでその情報を収集できるのか、地域福祉保健計画自体は全市民を対象とした計画なので、できる限り意見を拾えるように研究してまいりたいと思う。

(名和田委員) ありがとうございます。これからやろうとしている評価の方法や課題などが大分共有されたかと思う。それを踏まえてさらにご意見やご提案をいただければと思うがいかがだろうか。

(久保田委員) 恐らくこれはどこまで細分化していったかの差なのですね。福本委員が言っていたのは、これよりももっと細分化したところの話になるので、それがきっと市の計画ではなく、区の計画であったり地区別計画でそこを同じように見てもらわないとあまり意味がなくなってしまうので、市がどこまでやるかというのは検討いただく必要があると思う。その先にある区も地区も同じロジックモデルを意識したものをつくってもらえるようになればきっと色々な単位でのアウトカムの評価ができてくるようになると思うので、これ自体というよりは、これを次に降ろすことが重要ではあると思うので、ぜひ区へうまく伝達することも意識していただければと思った。

(名和田委員) その論点は、今のところ市の方針としてはどうなのか。区ごとに評価方法が違って良いと話していたこともあったと思うが。

(事務局) ご意見、ありがとうございます。区ごとに検討委員会の置き方も違っていたりするので評価方法自体は違っていても良いのかと考えている。

資料3-1の表面の(1)の一番下の矢羽根にあるが、区計画について評価方法を定めている区と未定の区があったり、区からも、アウトカム指標での評価について市計画で考え方を示してほしいという意見もある。今回、ロジックモデルを整理することで、区でもそのロジックモデル自体は活用しやすいものになる。これまでの評価とは違って、これまでは柱ごとに評価をしていたので計画の柱が違くと多分活用できな

いというか、適用できなかったが、今回ロジックモデルで評価とその指標の位置が整理されるので、区計画の評価をするに際しても参考になるものができるのではないかと考えている。

(名和田委員) ありがとうございます。区にこういう手法を強制したり、組織的にこれで進めていきましょうという訳でもない、自由であるけれども、こういう分かりやすい評価手法が提起されていけば区も利用するようになるのではないかと。区計画の中には具体的な事業が書いていない計画が結構ある。そういう場合にはまさにこういうロジックモデルのほうが入れやすいかもしれない。そのようにお考えいただければ採用する区が増えていくかと私も感じている。ほかにかがだろうか。

(山野上委員) 市民セクターよこはまの山野上です。一般の市民として、そもそもこの地域福祉保健計画が今回パブリックコメントを集めているという話をしても、身近なところでなかなか反応してもらえなかったというところから、この委員会に出ている身で言うのもおかしいのだが、この評価自体は誰がするのかということと、その評価がどうやって市民一人一人のところに届いていくのかが、よく分からないと思ってしまった。

その中で今回このアウトカムの話が出てきて、ここでは変化を数値で押さえていこうというところだと思うが、変化していないところ、変化できていないところ、この地域福祉に関わっていなかった人たち、変化したところが評価できれば良いものなのかもしれないが、変化できなかったところはどこで誰が見ていくのか。それが多分次の地域福祉保健計画を立てるときにも大切な点だと思うが、そこが見えてこなくなってしまうのではないかと考えた。

(事務局) ありがとうございます。評価を誰がして、どう市民につなげていくのかというところはまさに、各区であったり関係者から聞き取りによって情報を収集して整理したものを見て、この策定・推進委員会のほうで評価をしていく形になるかと思う。

市民に向けては、公表もするが、ここで大事なのは、できるだけ多くの関係者で評価する、議論することと、それが次期計画につながることでまたさらに市民に伝わっていけば良いのではないかと考えている。

もう一つの変化しなかった点を誰がどう見て、どう考えるのかというところは、アウトカム指標というもので見る。例えば、中間アウトカムに置いてあるような調査というのはなかなか変わらない。地域活動がどれだけ頑張ってもなかなか直接変えられないものかもしれない。数値的には変わらないかもしれないが、それは取組を通じて、定性評価も含めて評価することで、数字だけでは見えないものも併せて評価していければと考えている。

またこのロジックモデル自体、実際に評価で使ったことがないので、どこの項目がどう出てくるのかはまだ見えていない。それを実際に、このロジックモデルに当てはめて5期計画の評価をしていったときに、またこの取組がどうなのかということであったり、ここについて評価の考え方を、もう少し違うものを置いたほうが良いのではないかとというようなことが議論の中で出てくるものと考えている。今、これで5期計画の評価のロジックモデル案としてはつくっているが、これ自体が未来永劫このまま行くのではなく、ここの中身を皆様に議論していただく、できるだけ多くの方に議論

をしていただくことが大事なのかと考えている。

(名和田委員) ありがとうございます。なかなか試していないと分からないが、変化しなかった部分や、色々な角度からデータを集めて様々な変化を捉えていくことは可能なのではないか。例えば、最近この委員会でも時々議論になっていたのはソーシャルキャピタルといって社会関係資本、あれは実はいろいろなデータを駆使して人々の、それこそどのようなアンケートしても届かないような人たちのところも含めて、こういう社会変化があったということの分析から出てきている。どのぐらいデータを集められて、データサイエンスの手法を駆使してどのぐらい分析できるかというところなのかと思う。その意味では、特に中心になるとおっしゃっている中間アウトカムの項目立てについて、今日あるいは今後も、この場でぜひいろいろな意見をいただきたいところである。

今日のところは、初めて出てきたロジックモデル、なんとか理解できたところだろうか。西尾委員、何かあるか。

(西尾委員) ありがとうございます。途中、パブリックコメントのところであまりコメントできなかったのだが、委員の皆様からの問題提起が非常に重要だと考えて、あれこれと考えていた。

地域福祉保健計画は分野別計画の横断的なところを土壌として支えるというような意味合いがあって、例えば、子育ての計画であったり、障害者支援の計画であったり、特に当事者としてこれが必要、こういう不利益を何とかしたいというところは非常に分かりやすく、また意見も出しやすいところがあると思う。それが、私だけではなく、私たちというところがいかに共感して、理解して、私たちの問題であるというところに広げることの難しさが、パブリックコメントの面でもあったし、こういう評価のところにも表れているのではないかと思った。そこが地域福祉保健計画の難しさであるのかと感じた。

地域福祉ではよく我がことと言うが、我がことになるというところが、やはり簡単ではなくて、先ほどの福本委員の発言でも、私の課題、これをセンターに来られている母親たちの課題にするというのは私の課題というように、私たちの課題ということに広げていける、そういう共有ができることがこの計画の大変大事なところだし、横浜市が特にこの地域福祉保健計画を三層で、市計画、区計画、地区別計画まで、いずれの地区でもつくられて推進されているところが非常に良いところなのかと感じた。それをより具体的に評価していく、中間アウトカムでは(B)の困りごとを抱える人、これはまさに当事者だと思う。(A)の住民の支えあいというのは、広く一般の市民・住民のところだと思うが、当事者への理解がより市民全般に広がって支えあっていく、それが私たちというようになっていくプロセスが非常に重要なのではないかと感じるところが非常に多くあった。そのことを進めていく一つの試みとしても、ロジックモデルは、区も大変関心を持っているので、これを試みとしてまず市計画で取り入れて見ていくというのは非常に意味のあることなのではないかと感じた。ぜひ委員の皆様のご意見も参考にしながら、この試みを進めていけば良いのではないかと感じた。

(名和田委員) 西尾委員、ありがとうございます。有本委員、先ほどは貴重な補足をいただきましたが、終わりに当たって一言いただければと思う。

(有本委員) 大変貴重なご意見をいつも伺っている。私ども看護の分野では、本当に困りごとを抱えた方や複合的な課題を抱えておられる方、病気や障害をお持ちの方と実際に接することや学生を通じて接することが非常に多くある。また、その中で、声を上げづらい方たちの声を支援者の立場で代弁することの大切さも日頃感じているところである。それを学生の教育等を通じながら、また地域の皆様の活動もあるので、取り入れていくとともに、ロジックモデルや、評価をする上での資料の読み取りや、そういうことをお手伝いできればと改めて感じた次第である。引き続き、誰も取り残されない社会をつくるという意味で非常に重要な企画だと思うので、私も微力ながら皆様に教えていただきながら取り組めたらと思った次第である。

(名和田委員) ありがとうございます。今日は率直にご議論いただきましてありがとうございます。私も途中の評価検討会でも発言したが、先ほどの事務局の説明の中にも少し出できた、最終アウトカムに寄与した要因は地域福祉保健計画だけではないかもしれない。もっと別な、ごく普通の自治会活動であったりするかもしれないし、どこかのスポーツの取組であったりするかもしれない。そういうことは切り分けて分析する統計的手法もあるようだが、それはその専門の方にお任せするとして、最終アウトカムに至る道というのは色々とあって、その中でこの委員会が所管している地域福祉保健計画の取組は重要な一部ではあると思われる。しかもそれは非常に長きにわたるプロセスで、5年間の計画期間でどのくらい変わったかというとはほとんど変わっていないように見えるといったこともあるかもしれない。でも私は、この地域保健福祉計画に10数年関わっていて、当初から比べると全く変わっている。横浜市の地域福祉をめぐる状況は全く変わっていて、それは何となく時代の変化で変わったのではなく、ここにいらっしゃる実践者の方々を含めて地域の方々の、あるいは役所・専門機関の方々の努力で変わってきたとかなりはっきり言えると私は思っている。よく私が出す例で、生田委員には申し訳ないけれども、第一期の頃の地域ケアプラザの評判はさんざんだったと思う。でもその後、どうだろうか。今、地域ケアプラザは地域からものすごく信頼されており、すごい変容である。こういう変容はやはり10数年の間に起きている。地域福祉保健計画だけでも色々な変容がこの10数年にあったと思う。それは何らかの指標を取って、数字の上でもあるいは定性分析の上でも明らかにしていける、そのためにはやはり5年に一度、あるいは中間評価も含めて3年に一度ぐらいだろうか。地道に点検し続けることが必要だろうと思う。そのための有力な手法と思われるものが今回こうやってロジックモデルという形で提案されて、おおむね皆様方、ともかくこれでやってみてはどうかということであったかと思うので、今後また事務局で検討を重ねられて、ぜひ進めていただきたいと思う。

それで今日は議事の1番目で、第4期の最終評価について、特に大きな異論はなかったので、あのような方向で、行政のほうで評価を確定させて公表していただきたいと思う。それから第5期の評価については、今日概ねこれでやってみようではないかということになったと思うので、さらに検討を進めていただきたいと思う。

今日の議事は大体そんなところかと思うが、事務局から最後に何か、今の評価の手法について、一言あればお願いしたい。

(事務局) 皆様、ご意見をありがとうございました。特に指標の部分なども含めて、皆

	<p>様のご意見を踏まえて、完成に向けてまた進めてまいりたいと思うので、よろしくお願いたします。</p> <p>(名和田委員) ありがとうございます。それでは、これでほぼ時間も来ているのと、議事もほぼ終了したので、私の進行は終わらせていただきたいと思うが、最後に皆様から、今日はこれを言おうと思ってきたのにその場がないのではないかというような発言が何かありましたらお願いしたい。よろしいだろうか。</p> <p>(内田委員) 令和6年度4月1日から障害者差別解消法の中の合理的配慮の改正がスタートすると思う。その場合、こちらの福祉保健計画に結びつくことがあるかどうか、それが大きな課題になるかと思う。ぜひそういう方向性を踏まえて皆さんと一緒にこれからも考えていきたいと思うので、よろしくお願いたします。</p> <p>(名和田委員) 今のは、要請ということになるか。事務局、もしお答えが何かあれば。</p> <p>(事務局) 障害者のことについても関連する計画であり、横串としての幅広い計画なので、それも踏まえてこれから進めてまいりたいと思う。ありがとうございます。</p> <p>(名和田委員) ありがとうございます。</p> <p>これで議事は終了する。本日の議事録は、発言者の氏名と発言内容の要旨を記載したものを事務局で作成し、横浜市のホームページで公表する。委員の皆様には事務局から事前に内容を確認していただき、ホームページに出しても良い発言の趣旨を踏まえた修正をしていただければと思う。</p> <p>それでは本日の議事は終了です。どうもありがとうございました。</p>
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員名簿・事務局名簿 ○横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会運営要綱 ○第4期横浜市地域福祉保健計画最終評価について (資料1-1) ○第4期横浜市地域福祉保健計画 最終評価事前意見照会について (資料1-2) ○第4期横浜市地域福祉保健計画 最終評価 (案) (資料1-3) ○第5期横浜市地域福祉保健計画素案に係るパブリックコメント実施結果について (資料2) ○第5期 横浜市地域福祉保健計画第1・2回評価検討会の報告 (資料3-1) ○第5期横浜市地域福祉保健計画評価方法 (案) について (資料3-2) ○第5期横浜市地域福祉保健計画ロジックモデル (案) (資料3-3)